《ヒアリング調査報告》

地方都市の観光行政と観光戦略

――金沢市役所・金沢市観光協会へのヒアリング調査報告――

創生ジャーナル HS 編集委員会（文責：渡邊　洋子）

2015 年 3 月に北陸新幹線が金沢まで開通した。これを受けた金沢市は「金沢市観光戦略プラン 2016」により、訪日外国人旅行者の受け入れ環境の整備・誘客の推進などの観光施策を展開した。国内外から多数の旅行客が訪れ、企業活動の活発化等が見られた一方、一部の観光スポットでは、旅行客による混雑やマナー違反など市民生活に多大な影響が生じたため、「市民生活と調和した観光まちづくり」が切に求められている。本ヒアリング調査では、キャリア創生研究会メンバーが金沢市役所を訪問し、金沢市の観光行政と観光戦略について様々な観点からお話を伺った。以下は、文字おこし記録をもとに、三氏のご了解を得た内容をまとめた調査報告である。

ご対応いただいた中坂氏、八木氏と齊藤氏には、長時間にわたりご協力下さったことに感謝申し上げます。

（話し手）八木淳介氏（金沢市役所経済局観光政策課 観光係長）、齊藤哲朗氏（同　企画係長）、
中坂暢江氏（一般社団法人金沢市観光協会 専務理事兼事務局長）
（聞き手）藤巻一男、渡邊洋子、田中一裕、堀籠崇、並川努、榎本千賀子
（日時）2023 年 3 月 2 日（木）16：00～17：50
（場所）金沢市役所内

キーワード：観光行政、DMO、文化振興、行政と民間の協力、宿泊税

自己紹介

藤巻　本日は、お時間を取っていただき、ありがとうございます。私共キャリア創生研究会は、創生学部を足場に地域と人材育成に関わって研究しており、ここ 2 年間は地域に根ざした観光をテーマとし、昨年度は、新潟県湯沢町で雪国観光圏 DMO の中心人物、井口智裕社長からお話を聞いたり、十日町市にある当間高原リゾートホテルで地域と連携した取り組みのお話を聞いたりして調査成果をまとめております。今回こちらにお邪魔したのはその共同研究の一環となります。

その延長線上にもあるのですけれども、前回の雪国観光圏の井口社長のヒアリングの際に、特に宿泊税のことをお話しされて興味を持っていたところ、金沢市は先行して宿泊税を導入されているとお聞きしました。近県ということもあって、できれば直接にお話をお伺いしたら、有益な情報を得られるのではないかと思いお邪魔した次第です。

宿泊税導入の経緯と近況

齊藤　金沢市の宿泊税について、まずお話をさせていただければと思います。

宿泊税につきまして、税を徴収する税務課が担当になります。直接観光政策課が宿泊税の徴収をしているわけではないですし、宿泊税の導入を決めたのも違う部署ということになります。そのため、あまり深くはないですけれども、担当部署から資料も頂きまして、宿泊税が観光にどう生かされているかというところでご説明させていただければと思います。

宿泊税導入の経緯といたしまして、まず平成 27 年 3 月に北陸新幹線金沢開業がございまして、想定していた以上のお客さまに来ていただくことになりました。従来の特急列車が来ていたときの 3 倍のお客さまが来られたということで、街なかがいっとき人であふれるというような状態になりました。そういう中で一部ではオーバーツーリズムという言葉も出ましたけれども、どうにかしないといけないという金沢の経済同友会や

議会からの意見も受けまして、宿泊税導入に向けた検討が始まったということでございます。

平成28年に市長が（宿泊税導入を）表明しまして、それから検討を始めていくことになるのですけれども、平成29年に北陸新幹線開業の影響検証会議というものを設置しまして、宿泊税検討プロジェクトというものも、庁内プロジェクトとして設置しております。

色々検討を重ねていき、平成30年の3月議会で宿泊税の条例を上程して可決したということでございまして、その可決を受けて総務大臣に協議をしまして、総務大臣の同意も得られることになりました。その後、全ての宿泊事業者を対象に、事務説明会を実施させていただきまして、平成31年4月から課税を開始しているというところでございます。

納税義務者としましては宿泊者から（宿泊税を）取るということですから、宿泊事業をやっている方ということになります。税率につきましては、2段階税率を設定しておりまして、宿泊料金が2万円未満のところは200円、2万円以上のところは500円を課税しているということになります。

税収の使途につきましては、金沢の歴史、伝統、文化など固有の魅力をより一層高めるとともに、市民生活と調和した持続可能な観光の振興を図る施策に活用するということになっておりまして、毎年それにかかる費用に充てているというところでございます。

最初の税収の見込みとしましては、通年ベースで7億2000万ベース、初年度（令和元年度）は6億6000万を見込んでおりました。

特別徴収事務ということで、宿泊事業者さんにお手間をかけるということで、宿泊事業者さんに交付金を交付するということになっております。

一番下の制度の検討というところで、条例の施行後5年ごとに、条例の状況とか社会情勢を勘案しまして、宿泊税の制度を検討するということになっておりますので、来年度検討するというような流れになっております。

事業者さんの要望事項とか市の考えについては公表しており、ホームページにも載っておりますが、こういうふうなやりとりがありましたというようなことでございます。

また宿泊税の状況でございますけれども、令和元年度は6億6000万円を見込んでいたのですが、7億7000万円ほどの税収があったということでございます。R2年度につきましては、コロナウイルスの影響もございまして4億3000万円ほどに落ち込んでおりまして、令和3年度も、もっと減ったのではないかと思っております。

これは先日発表されたばかりですが、来年度の予算案の発表の中の宿泊税の活用については7億1000万円ほどの予算案を組んでおりまして、この中にも先ほどの活用ということで、まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興とか、観光客の受け入れ環境の充実とか、市民生活と調和した持続可能な観光の振興ということの予算に充てられているというところでございます。

導入の経緯というのは先ほどのものですが、その影響で宿泊客が減った、増えたというところについては、令和元年度の実績を見ると、そこまで影響はなかったのかなと思いますが、令和2年度からは新型コロナウイルスの影響もございまして、検証がなかなか難しいかなというところで現在まで来ておりまして、なかなか200円取ったことによる影響というものは見えないかなとは思ってはおります。ただ、宿泊者自体は戻ってはきているので、そこまでは影響はないのかなというふうには思いますが、なにぶん検証はできていないところだと思います。

令和3年度観光計画とオーバーツーリズム

齊藤　金沢市におきましては、令和3年に新しい観光計画を作成しました。お手元の「概要版」のタイトルから分かるとおり、持続可能な観光振興推進計画ということになっております。市民生活というものをやはり大事にしていかないと持続可能な観光というものはできないということで、この宿泊税を活用しまして、市民の生活にも寄与できるものということで予算案を組んでおります。ですが、実際問題、観光政策課の予算で宿泊税を活用しているというところがまだまだ少ない状況でございまして、市民にももう少し分かりやすい形で、観光客が増えればこういうことに使われているという周知が必要と考えているところでございます。

今年度の予算編成は、昨年度よりは観光政策課の施策に予算が付いたというふうには思っております。

藤巻　ありがとうございます。導入の経緯のところでちょっとお尋ねしたいのですけれども、オーバーツーリズムの影響を受けたのは特に金沢市だけだったのでしょうか。例えば、石川県でも他に観光地はありますよね。能登とか加賀とか白山。

齊藤　オーバーツーリズムという状態ではなかった

と観光政策課では思っておりますが、特定のスポットが特定の時間帯に大変混雑しましたので、市民生活には結構影響があったと思っています。ですが、金沢市のスポットも、かなり限定的でございまして、例えば近江町市場とか、ひがし茶屋街は、時間帯と時期にもよりますけれども、いっとき集中して市民が行きづらい状況になり、住んでいる住民の方に迷惑がかかったところがございますが、市全体がそういう状態だったというわけではないので、いわゆる定番の観光スポットに限るというところでございます。それが県全体にそういうオーバーツーリズム的な状態で波及したかというと、そこまでではないと思っております。新幹線の効果でお客さんは県全域には増えているとは思うのですが、そんなに迷惑がかかるような状況ではないと思っています。むしろ経済的に良くなったのではないかというぐらいの影響です。

宿泊税に関わる市の対応と県の姿勢

藤巻　宿泊税というのは法定外目的税でしたね。

齊藤　はい。

藤巻　その場合、地方税として県で導入するか、市で導入するか分かれるじゃないですか。県内の複数の市が関係するのだったら県で導入するのがいいのでしょうけど、金沢市の宿泊税に関しては市内にとどまっているということでしょうか。

齊藤　そうですね。他の地域とか、隣県なんかでは北陸新幹線が金沢で開業したときに、金沢の一人勝ちと言われるほどに金沢にお客さんが集まってしまったので、それをどういうふうに自分たちのエリアに波及させるかというところが、やはり地域の皆さんが考えているところだと思うので、逆に宿泊税を県全体で取るとなると、そこが効果を得られなくなってしまうということを考えるかなとは思うのですが、今のところ県全体で取るという動きは聞いていないですし、動きはなかったかなと思います。

藤巻　福岡だと県と市の対立があったと聞きましたが、こちらではそういうのはなかったということなのですね。

齊藤　そうですね。石川県は地域によってやはり事情がだいぶ異なるので。

藤巻　金沢市だけで観光が完結することが多いのでしょうか。石川県において、例えば能登にも行くとかではなくて、金沢に滞在して帰るというような方が多いのでしょうか。

中坂　新幹線で金沢に入りました、そこで金沢を観光します。その後、能登とか加賀温泉に泊まってというような方々も確かにいらっしゃいますし、そのとき何で行くかですね。特に能登の方は交通の便もそんなによろしくないので、レンタカーで行ってくるよというような方もいらっしゃいます。

個人客はそれなりにばらけるのですが、学会とかコンベンション系になりますと、金沢市内にそんなに大きなキャパの宿泊施設がないので、そのときは加賀温泉の方に宿を取るとか、富山の方に行ってお泊まりになるとか。泊まりは外へ行くけど、また日中は金沢に戻ってきてというようなこともありますので、それぞれ団体さんに応じた動きをされています。ただ、個人客の方は金沢でというところが多いと思います。

藤巻　県としては、今のところは宿泊税を導入するという話はないわけですね。

中坂　今のところはあまり聞いていないですね。

八木　どちらかというと政治の問題なのかなという気もします。福岡県の政治の話と石川県の政治の話では若干違いがあるのかもしれません。

藤巻　分かりました。

中坂　聞こえは悪いのかもしれませんけど、石川県は能登方面に観光の力点を置いて、金沢は自由にやってくださいという考えが若干あるのかなと思っています。

藤巻　県としてはね。

藤巻　税金はすごくシンプルですよね。2 万円未満だと 200 円、2 万円以上だと 500 円ということで、だいたい宿泊税を導入している自治体というのは、こんなふうに定額で課すというパターンが多いのでしょうか。例えば、宿泊税によっては定率で課すようなところもあるのですけれども、これはやはり簡素性とかそういう観点で導入したということなのでしょうか。

齊藤　そうですね、分かりやすさというところで。金沢市は京都方式を採用しておりまして、2 段階の税率です。京都は学生さんとか減免しているというのもあるのですが。

藤巻　修学旅行がありますからね。

齊藤　はい。金沢の場合はそれもやらずに、宿泊税は全部一律で、学生さんも含めて取るということにしておりまして、そこは宿泊税を用いた施策で還元するというようなところにしております。

藤巻　資料を見ると、民泊というのですか、住宅宿泊事業の届出をしている住宅宿泊事業というのがあるのですが、これも一応 1 泊 200 円でということになる

のですか。

齊藤　そうですね。料金によりますけど、200 円か 500 円取るということです。

藤巻　例えば色々なランク、民泊だと色々なレベルがあると思うのですが、とにかく 200 円を取ると。

齊藤　そうですね。一律で。

藤巻　届出していれば市の方ではもう管理しているわけですから、徴収は可能ということなんですね。

齊藤　はい。

堀籠　北陸新幹線が開業したことによって宿泊税が導入されたということですが、その中で、先ほど少しお話されたことの確認ですけれども、他の自治体との間で連携しての観光の取り組みみたいなところはあまりなくて、完全に金沢は金沢で独立した感じでやっているのですか。

齊藤　いや、そういうわけではなく、広域連携も進めておりますし、10 年前でしたっけ、3 つ星は。

八木　今の形では平成 29 年からですが、原形はそれより前になります。

中坂　広域は広域で観光の連携はやっていますけど、それは宿泊税とかいうこととはまた別の話で、あくまでも宿泊税を取っているのは金沢という話になります。

藤巻　広域連携だと複数の市がまたがりますよね。

中坂　はい。

藤巻　そうすると、やはり運営費とかそういうコストがかかりますよね。そこの費用はどのように負担することになるのでしょうか。

八木　参加自治体のそれぞれから負担金を得てやる形になります。そういう協議会を直接組んでやるような形の場合は負担金として、応分の負担を求めてやりますが、必ずしも連携という形ではないものもあります。例えば県との連携であれば、県と別に協議会を組んでいるわけではございませんので、県の事業の中で金沢市が動くことは当然あります。そこで連携しないで金沢が独自にということはまずないですね。

さっき中坂さんの方から県の動きについて言われたのは、金沢は金沢で動いている部分があるので、県とすればそこにさらに同じような施策をすればダブルな施策になってしまうので、金沢市がしっかり頑張ってくれているから、そこは任せましょうという形があるのであって、何もしないというわけではないです。

堀籠　役割分担を設けているのですね。なるほど、分かりました。ありがとうございます。

齊藤　金沢市も宿泊滞在日数がまだまだ少ないということや、消費額が少ないというところがあるので、県内だけではなくて広域で連携して、地域で滞在期間を延ばして、単価の向上というものを目指しているということなので、10 年以上前から高山とか、白川郷とか、南砺と連携して広域でやっているということもありますし、色々な枠組みで連携しています。

宿泊税の使途と観光・文化予算

渡邊　今、宿泊税を充てて一番効果が出ていると思われたり、今後期待していらっしゃる対象はどういうものですか。

齊藤　一番効果が出ているというところは難しいですけど、シェアサイクルの利用促進があります。「まちのり」といって、金沢全体にレンタサイクルみたいにシェアサイクルというものが置かれています。ここ数年でポートもだいぶ増えましたし、自転車の数も大幅に増えておりまして、それに伴って利用もすごく伸びており、観光客のみならず市民の方もご利用になって活用されているので、目に見えて施策が生かされているのかなとは感じます。行政としましても、「市民生活と調和した」というところに施策をもっとあげていければと考えています。

渡邊　シェアサイクルの利用促進によって、車の渋滞が緩和されるところにはつながっていますか。

齊藤　やはりバスも混雑が見られたのもありますし、自転車を使えば色々バスの停車しないところも回れるという、周遊ということもございますので、バスを含めた公共交通や自転車など色々な選択肢があって、街なかを周遊できるということが大事かなと思っています。

中坂　金沢は割と観光地がコンパクトにまとまっているというところがあるので、不慣れなところを複雑な系統のバスで行くというのが苦手であれば自転車で回っていただいて、観光スポットのところにポートがあるので、そこで乗り捨ててまた次乗り換えみたいな感じで回られるのが効率的、ということもあります。あと副次的ですけれども、観光というよりは市民の方々も通勤に使っていらっしゃったりしますので、街なかで緑色のボディの自転車がよく見かけられると思います。市民も使えるし観光の方々も使えてということで、結構人気のあるいい施策だなと思っています。

渡邊　それはいいですね。じゃ市民の方は皆さん広報などで割とご存じですか。

中坂　広報も導入のときからもうじゃんじゃんしていますし、あと、充実する、ポートが増えるたびにま

た出ますし。「みんなで使っている。便利だよ」という口コミもあります。キャンペーンもあるので、ここ数年のうちですけど、パーっと広まった、市民権を得たなという感じはしますね。

八木　ここ数年で一番、まちのりで広報として役立ったのが、コンビニエンスストアにポートがかなりできたことです。今までは公共施設を中心にポートを置いていたのですが、リニューアルの際、プロポーザルの提案者に民地で置かせてもらえるところを提案させた中にコンビニエンスストアがいくつかありまして、それで目に付く頻度が増えているというのも、市民の間に広まっているという意味では非常に大きいと感じています。

中坂　コロナでバスに密集して乗るのは怖いよという人が、アウトドアなら、みたいな感じでも、利用が増えたかなという一面もあります。

渡邊　これは観光客の方には、他の観光情報と一緒に提供している感じですか。

中坂　はい、しています。

齊藤　ガイドブックにもまちのりを紹介させていただいています。

渡邊　ホームページにしてもガイドブックにしてもそうですけど、金沢市の広報全体が、すごく行き届いて洗練されている感じがするのですけど。

中坂　素人が作ってもと思うので、みんな専門家にお任せして、色々アイデアをいただきながらやっています。

八木　（資料の）中ほどの地図のところに、まちのりも含め、交通情報をまとめて載せてあります。

渡邊　なるほど、QR コードも掲載されているんですね。

榎本　先ほど定番のスポットにやはり観光客が集中してしまうというのがありましたけれども、このシェアサイクルを導入したことで、やはり少し観光客の流れというか、そういうのが変わったり分散しやすくなったりということはあるのでしょうか。

八木　ポートの中で一番、回転しているのが、実は混んでいる金沢 21 世紀美術館です。リニューアルする際に、ポートの位置をもう少し分かりやすくしたいということで、ポートを設置している施設の名称を付け、その場所に置くようにしました。名称を付けて、バスで直接行きにくい所にもポートを置きましたので、利用状況を見ると、そこを目がけて行ってくれている人が少し増えていることは分かっています。ただ、これによって利用の増えた所の分散化ができたことはなく、逆に増えているのではないかという気もします。

榎本　なかなか分散化というのは難しいというところでしょうか。

中坂　21 世紀美術館のところの色々な系統のバスがあるのですが、そのバスに乗らないで、まちのりで次のところへ行く人が増えていることは確かで、バスの混雑は若干緩和されているのかもしれないと思います。

渡邊　先ほど、業者の方にこういう広報を担当してもらっているとのお話だったのですが、観光とか文化振興にすごくいい形で予算を投入されて、それがちゃんと実を結んでいる感じの印象を受けるんですが、そのあたりはなぜうまくいっているとお感じですか。外から見てすごく対応が行き届いている感があるんですが、どんなところが強みになっているからこの状況が生み出されているとお考えでしょうか。

中坂　予算面はかつかつの中でやっていると思うんですけど、やはり金沢は美術というもの、工芸とかそういったものに力を入れています。金沢独自のもの、さすが金沢というものを作りたいという見栄っ張りだと思います。金沢には市立美術工芸大学もありまして、そんなところでデザイナーも養成し、市の色々な刊行物を作るときに、その美大の先生にアートディレクターとして入っていただいております。迷ったときには色々ご相談して、アドバイスをいただき広報物がクオリティを高めていると思います。

八木　どこの地域でもまちづくりに参画されると思うんですけど、歴代の市長さん、あるいはそれぞれ地域の代表として出られた議員さんたちが、ずっと前から金沢の中では古いところを守って新しく開発する地域と完全に分けてやるという考え方をずっとつないできてくれている部分があります。その中で文化だったり、文化に絡む予算に対する比率というのはずっとほぼ守られているのだろうと思いますし、そこはまちづくりに絡んだ部分があるのだろうと自分は思っています。

そうでないと言う方もいるかもしれないですけど、まちづくりに絡んだ部分でも文化に絡んだ部分、例えば街並みの保存というのも当然文化にもつながりますし、観光にもつながる部分だと思うのですが、これは観光の予算でもありませんし、文化の予算でもなくて、皆さんのところでも通常にやっている建物の、要は都市計画の予算だったりそういうところにあるのですが、そういったものも観光や文化につながっているということになるのかなと思います。

藤巻　観光振興費としても一般財源の方から、またこれとは別にあるわけですよね。だから、そういうものも含めると結構な額にはなるでしょうね。市の予算で別途決まるんだと思いますけれども。

八木　さっきの効果という話であれば、一般財源でやっていたものが一部宿泊税に置き換わったという感じなのかもしれません。

藤巻　その分、一般財源からの補てんが少なくなったというわけではないんですよね。

文化を育ててこその観光

中坂　金沢は時々観光都市というようなことを言われるのですが、市としてはその言葉を嫌っていまして、金沢市は文化都市で、文化を見にいらっしゃる方がいるということであって、観光業というのは大事ですけれども、文化を育ててこその観光だ。みたいなところがあります。そこから文化に力を入れていくというストーリーがあると思っています。

藤巻　（資料の）見出しからそうですよね。歴史・伝統・文化の振興ということで、観光の振興とはなっていないですよね。副次的な効果ということでしょうね。

渡邊　市民の中にそういうふうに文化を大事にしていこうという、そういう意識が高いと感じられますか。他の地域とは比べられないかもしれないですけど。

中坂　習い事とかいうのは昔から盛んなところで、お茶とかお花とかそんな。これは女性だからというわけではないですけど、そういうお作法の一つとしてやられたりということもあります。近頃はスポーツの方に女性も男性もシフトしていっているところはあると思うんですけど、伝統的な芸能に対する造詣もありまして、能楽も盛んなところで、天から謡が降ってくるといわれているように、植木屋さんがたしなみとして謡をやって、その練習のために庭木剪定の作業のときに謡を謡って、それができてこその一人前と。

最近そんな人がどれだけいるか分かりませんけれども、金沢に職人大学校という、屋の字の付く左官屋さんとか、畳屋さんとか、表具屋さんとか、そういうところの1コースに造園のコースがあるんですけれども、その中のカリキュラムの一つとして、謡を学びます。そういったところで文化、芸能について力を入れているところはあると思います。

能楽もそうで、子ども能、素ばやしとか、色々な伝統芸能に関わる子ども塾もあります。大人になるまでやっている方がどれだけ続くか分かりませんけれども、そういった素養を市民が持ちつないでいくことが大事なのではないかと思っています。

渡邊　以前京都にいたのですが、京都でちょっと聞いたりしていたこととすごく重なるなと思いました。京都でも習い事とかが大変身近だと聞いていたんですけれど、今お聞きしながら、金沢はすごく似ているなと思いました。

中坂　古い町というのはどこもそうなのかなと思いますけれども、例えば茶道に関連し、金沢は和菓子の消費額が高く、アイスクリームとかチョコレートも日本一の消費量です。京都もコーヒーとかチョコレートとかアイスクリームとか、甘いものが日常的にあり似ていると思いますね。

渡邊　少し変わった質問になりますが、金沢市民は京都をどういうふうに見ていらっしゃるのでしょうか。行政の話ではないですけど、ちょっと気になるので。

中坂　小京都ということを時々使われると思うのですが、金沢は小京都とは思っていません。京都は公家の文化ですが金沢はあくまでも武家の文化だと思っているので…小京都よりは小江戸の方がいいのではないかと思いますね。

京都はやはり雅（みやび）なところがあって、江戸はやはり粋。じゃあ金沢は一言で言うと何なのというのはそれぞれの思いがあって、私もずっと考えているのですが、なかなか答えが出てこない。京都はやはりその歴史とかスケールにはとても太刀打ちはできないので、宿泊税もそうですし、オーバーツーリズムもそうですし、色々なものを京都が先に走ってくれて教えてもらうまちです。

渡邊　ありがとうございます。

文化振興／学習と観光政策課

榎本　宿泊税の用途のということで、「市民生活と調和した……」が3番に書かれています。例えば、スポーツ大会なども書かれていますけれども、教育委員会がやるようなところとか、それこそ住民課とか福祉課とかそういうところがやるべきところとちょっと重なるようなところもたくさんあるのではないかと思うんですけれども、文化をベースにした観光ということになると、やはり他の、特に教育委員会かなとも思うのですが、そういうところとかなり分業というか、重なるということがあると思うのですが、そういうところはどのように連携をされてうまくやっていらっしゃ

るのかなと思っていました。

八木　自治体によって、もう既に進んでいるところは多いと思うのですが、金沢市は文化行政の部分は市長部局にかなり早い時点で動いていまして、教育委員会の部門から外れています。そういった意味では、教育委員会とのあつれきという言い方はよくないかもしれないですけど、そういう部分は少し少なかったと思います。

また先ほど中坂さんからも話があったように、子どもに文化のものを教えたりという部分もあるのですが、そういう部分は教育の方も理解を示している部分もあるので、いわゆる縦割り的にぶつかるところは非常に少ないのではないかという気はしています。

榎本　むしろ協力しながら、という感じなのでしょうか。

八木　そうですね。学校教育の方でも文化の勉強をする部分を取り込んでいたり、社会の独自の教材にもそういった部分を入れています。その中身を作っていく部分に関してはそれぞれの部局に、先生から問い合わせが来て中身を精査する協力もしますから、もともと垣根が低くなっていたのかなという感じはします。

榎本　そういった中で、観光政策課さんはどういうところを特に力を入れてという感じになるのでしょうか。

八木　今のこの部分で、ですか。

榎本　そうですね。こういったものの中で、他のところとも協力しながら、ということですけれども、特に文化とかそういったところではここにというのはどうでしょう。

中坂　コロナ期でマイクロツーリズムのようなところが取り上げられたこともあったと思うのですが、子どもたちが道端で、観光客の方がいらっしゃったら「ここ、いいよ」「こう行ったらいいよ」というようなアドバイスができるということは大事だと思います。実際市が実施した事業で、子どもたちにモニターになって「観光客の人たちはこのようなことを見てるんだよ」みたいな取り組みもしております。これは直接宿泊税を使っているわけではないですけれども、子どもたちに観光ということを理解してもらう取り組みとして、観光客ごっこみたいなところがあってもいいのかなと思っています。

八木　ここで言う双方の交流というのは、先ほどの連携以外に交流協定を結んでいる都市がありまして、それらの都市との行き来があります。市民活動としてそれらの都市と交流している部分へのお金の補助とかの部分がこの中に含まれています。それが観光の仕事と言われると、どうなんだろうというところはあるかもしれませんが、金沢市においては、交流都市との事業は観光部局が所管している部分なので、予算を持っている。それが文字に表現されると、教育委員会の予算に重なって見えるのかもしれません。

榎本　ありがとうございます。

渡邊　協定を結んでいる都市というのは国内ですか。

八木　そうです。例えば東京であれば板橋区、目黒区、文京区になります。先ほど江戸の話が出ましたけど、前田家の上屋敷や下屋敷があった所で、そういった所と交流の協定を結んでいて、民間ベースでも人の行き来をしていただいています。

観光政策課の役割と連携

渡邊　何というか厚みがありますね。観光と普通言われるときに出てくる項目より、やはりさっきおっしゃったように、先に文化があってそこに観光も含まれていることですね。観光だけを目指すのとは違う形になっていて、とても面白いなと思って聞かせていただいています。

齊藤　金沢市では観光政策課は、観光のためにどうするというより、プロモーションとか、あるものを紹介するとか、それに伴ってコンテンツを作るとか、そういう担当でございます。まちづくりが先にあるので、そちらの予算がやはり観光部門にないところであり、景観であるとか、先述の都市計画とかが先にございまして、文化というものも文化政策課とかいうところが担当です。文化部門が子どもたちの塾とかもやっていますし、文化政策をしっかりと進めていますので、そうやってできたものを観光が紹介しているという、そんな形なので、観光の予算というよりはまちづくりの予算ということなのかなという。

渡邊　そういうことなのですね。

八木　「予算」として載っているものが全部われわれの課の予算というわけではなくて、本当にこのうちの一部にすぎません。

齊藤　観光政策課の事業は、この中の 2 割～3 割ぐらいしかなく、それ以外は予算ももらっていません。

八木　文化・スポーツ施設の充実についてですが、これも文化政策課とスポーツ振興課という別の課がありますから、そこに行っているお金になるので、こっちには 1 円も入っていません（笑）。

中坂　でも、そういった施設を修学旅行で使ったり、

というのは観光の方に流れてくるので、全部で回しながらやっているというところかなと思います。

渡邊　相乗りしながらですか。

中坂　いいとこ取りみたいな。

八木　これは、こういうふうにうまく使っていますよ、という行政の仕事の見せ方なのかなと思っています（笑）。

渡邊　なるほど。工夫されているのですね。

市観光協会の役割と戦略

堀籠　一般に観光政策というと、新しい観光コンテンツをどうやって作り上げるかというところが議論になったりしているのかなと思うんですけれども、お話を伺っていると、今ある人々の暮らしとか生活とか文化みたいなものをとにかくしっかり守っていって、その魅力を外部に伝えていくということをすごく大事にされているように思ったのですが、一方で、ちらちらと観光コンテンツの創造というお話も出ているかなと思います。具体的にどのようなことに力を入れていますか。

中坂　先ほどからチラチラと言っておりますように、金沢は本物で見せるよというようなところですけれども、まず金沢市観光協会の取り組みとしまして、「魅力あるコンテンツ」を作っていくよと。そして、それを戦略的にプロモーションして売り出していって、広域連携を進めながら、受け入れ環境も整備していきますよという、今までのちょっと総括に近い話になるかなと思います。

戦略方針としましては、今ほどありました強みを活かしていこうということで、本物を売っていきます。何かというと、伝統工芸や伝統芸能、そして食文化、この3本を柱としています。

伝統工芸につきましては、インバウンドの方々も意識し、金沢には色々な工芸の作家さんがたくさんいらっしゃいます。日本工芸会の会員さんとか、色々な作家さんがいらっしゃいますので、その工房を見学します。全く公開していないわけではないのですけれども、特別な時間帯、特別なサービスを受けて作家さんとじかにお話ができるという魅力のあるものを作っていきたいと進めているところです。

作家さんだけでなく、体験の業者の職人さんにも協力していただいています。金沢は金箔工芸が有名ですけれども、小さいお皿とか鏡とか、そんなものに金箔を貼り付けていくとか、水引細工、いわゆる女子旅といわれるような若い方々が気軽に体験できるような「春の金沢　体験クーポンキャンペーン」として体験ものもできるような企画も作っております。

お手元に、冬の金沢の旅という中に挟み込んである資料の中にも、「かなざわ自由時間」というパンフがありますが、ここで色々なアートとか、グルメとかという体験をホームページの方でご紹介させていただいております。そういったものを見て金沢の旅を満喫していただこうと思っています。

次に伝統芸能は「金沢芸妓のほんものの芸にふれる旅」ということです。通常お茶屋さんや芸妓さんというのは「一見さんお断り」で、旦那衆の常連さんの宴席で芸妓さんが芸を披露するというのが通常です。それを、実際「どんなことをしているの」かを見ていただく、体験していただく取り組みを、観光協会主催でしておりまして、そのチラシもあります。

開催日が決まっておりますが、金沢には、ひがし、にし、主計（かずえ）の三茶屋があり、基本は芸妓さんの芸舞や歌、笛などの披露をしていただく。その後、金沢芸妓さん、お茶屋さんの名物として、石川に浅野太鼓という全国的なシェアを持っている太鼓のメーカーがあるのですが、観光客がお茶屋さんで太鼓をたたいて芸妓さんと一緒にお遊びするという体験も一つの名物となっております。芸妓さんがトントントンというのに合わせて太鼓をポンポンとたたくというようなお茶屋体験を1時間していただく取り組みをさせていただいております。

ちょっと蛇足ですけれども、6 月に百万石まつりがございまして、俳優さんに入っていただいて、「利家とまつ」の時代行列があります。その際に、獅子舞とか太鼓、「加賀とび」というはしご登りの芸能の披露がありますので、お時間がありましたら、6 月に金沢へお越しいただければと思います。

食文化の方では、協会の方でグルメチケット「金沢美味」を出しております。

Red 券、Yellow 券、Green 券、Blue 券、Purple 券という五種類のクーポン券をご購入いただいて、その額面よりもちょっとサービスの付いたメニューを召し上がっていただくことにしております。

旅行者の方は、食事には来たけれども、何を食べていいのかなと。最近はよく口コミで色々な情報があるので見定めて来る方もいらっしゃいますけれども、食事はどうしようかなと思ったとき、これを使って、観光協会が出しているお店なら信用できるかなというような安心で選んでいただければと思っております。

それと併せて料亭プランです。なかなか値段が張るんですけど、食文化で、金沢は、海の幸、山の幸などの食がおいしい所でございますので、料亭もせっかく来たのだからと行っていただければと思っております。

その他に、「看板商品　美食のまち金沢」とあります。これは国の事業で、地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業で、今年実際やりました事業でございますけれども、人気店で予約の取れないようなところに特別のメニューを作っていただきまして、限定でお召し上がりいただくというようなプランを作り、モニターも入れながらメニューの開発をしたところでございます。

DMO：金沢市の場合[1]

藤巻　DMO というのがありますよね。広域で結構やっているところもあったりするのですが、こちらではいかがでしょうか。

中坂　金沢市観光協会は地域 DMO です[2]。

藤巻　石川県だと DMO はこちらだけになるのですか。

中坂　石川県も取っていたのでは。

八木　県も DMO。広域も取っていますし、他に能登地区にも取っているところはたくさんあります[3]。

中坂　DMO としましては、当面のミッションは地域の観光事業者さんとかホテル業さんとかを対象に、稼げる観光都市づくりとして、消費単価を上げてなるべく長期に滞在していただくというコンテンツを作っていきたいと思っております。

そういったことで、金沢版 DMO マーケティング会議というのを行っています。宿泊とか、交通、商業施設、飲食、小売り、アクティビティの事業者さんたちにお集まりいただきまして、少数精鋭でございますが、そこで「最近のお仕事どんな感じでしょうか」「宿泊、最近どういう動向ですか」「インバウンドは戻ってきておりますか」といった情報交換をしていただきながら、お互いの波及効果を狙っています。例えば、宿泊で「ここでドンとお客さんが入ってきました」というと、飲食の方で「じゃあ、在庫を増やしていこうか」とか、お土産屋さんも「在庫を増やしていこうか」といった、連携してお客さまを受け入れる態勢を整えていくための情報交換の場、勉強会となっております。

また、観光協会では、ホームページ「金沢旅物語」というサイトを作っておりまして、そこで日々ホームページの動向を分析しております。月 50 万セッションとか、結構いい数を出しております。

コロナの影響もありまして乱高下しておりますけれども、そこでコロナで政策がちょっと緩和されると、ホームページのビューが増えたというような動向を見定め商品づくりに生かしています。

先ほどの DMO の協会の会員さんたちが商品を作る勉強会を開いておりまして、先日も SNS 広告をどういうふうにやっていましょうかとか、コピーライトをどんなふうに作っていきましょうか、広告に出していく写真はどうやって撮ったらいいでしょうかというようなことを会員の皆さまにご参加いただきレベルアップを図っています。

---

[1] DMO（Destination Management Organization）とは「観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人」を指す（JTB 総合研究所 https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/dmo/、2023 年 12 月 10 日最終参照）。
もっとも、金沢市観光協会のように、地域の観光協会が DMO に登録するケースもある。観光協会には「一般社団法人、公益社団法人と冠を付けながらも観光課のなかに設置されている行政依存型」「音楽イベントや花火大会などで、独自の事業として年間の予算を稼いでいる自立型」があるが、いずれも目の前の事業展開に手一杯で「新規の観光客開拓のためのプロモーションにまでは手が回っていない」とされる。これらの観光協会と差別化を図る DMO 関係機関においては、このような「国内外の富裕層などの観光客の新規開拓のために、マーケティング戦略や集客につながる効果的な戦術をたて、実践していくような組織」であることが強調されている。（以上、富裕層ビジネス日本版 DMO 総合研究所 https://japanese.or.jp/dmo/、2023 年 12 月 10 日最終参照）

[2] 金沢市観光協会は 1949（昭和 24）年 5 月に任意団体として設立され、2014（平成 26）年 5 月に一般社団法人となり、2017（同 29）年 11 月に金沢市の地域 DMO として登録された。。

[3] DMO には、広域連携 DMO、地域連携 DMO、地域 DMO の３つの区分がある。以下は、石川県の例である。〇地域連携 DMO の例：（括弧内はマーケティング・マネジメント対象区域）…公益社団法人石川県観光連盟（石川県）、一般社団法人ななお・なかのと DMO（石川県：七尾市、中能登町）、〇地域 DMO の例：一般社団法人金沢市観光協会（石川県：金沢市）、一般社団法人こまつ観光物産ネットワーク（石川県：小松市）、一般社団法人加賀市観光交流機構（石川県：加賀市）、一般社団法人白山市観光連盟（石川県：白山市）、一般社団法人志賀町観光協会（石川県：志賀町）。なお、創生ジャーナル第 6 巻で取り上げた一般社団法人雪国観光圏（新潟県：湯沢町、南魚沼市、魚沼、十日町市、津南町、群馬県：みなかみ町、長野県：栄村）は、地域連携 DMO に区分される。（出所）登録観光地域づくり法人（登録 DMO）登録一覧（282 件）（令和５年９月 26 日現在）https://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000252.html（2023 年 12 月 3 日最終参照）

次、コト商品の企画開発ということで、観光協会と事業者さんが連携してツアーを企画しているもので、ちょっとというか、ずいぶんゴージャスなツアーになっております。

ちょっとラグジュアリーな旅というところで進めていまして、近江町でカニ面を作る体験とか、夜セリを体験新潟の方に言うのはちょっと僭越ですけれども、日本酒をお酒の店主さんにコーディネートをしていただいてフランス料理と合わるなどそのような色々な企画を開発、販売のご協力をしています。

地元の事業者さんに「こんな企画を出したい」ということのご提案をいただきまして、一流どころの旅行社さんの方にアドバイザーになっていただき事業提案の企画を魅力あるものに磨き上げていただく。

ラグジュアリー系の旅行会社さん、三越伊勢丹ニッコウトラベルとか、ロイヤルロードさんとか、割とゴージャスな旅を企画していらっしゃる首都圏の旅行会社の方々にもモニターで参加していただき、ご意見をいただき企画として磨き上げしていただいております。

その他、有力メディアとタイアップして、国内の女性・富裕層をターゲットとした有力な雑誌。ここにありますのは『美しいキモノ』とか『ELLE』『25ans』という、割とリッチな女性をターゲットとしたような雑誌の方にタイアップ記事を出させていただくことで、「金沢に行ってみたいな」とか「こんな着物着てみたいな」というような PR させていただいております。

そして、インバウンド系の海外プロモーションにも力を入れております。ターゲットとしましては欧米豪地域。もう全国的にそこを狙っているようなところはございますが、なぜそこを選ぶかというと、資料は全国と金沢にいらっしゃる外国の方々の比較ですが、全国平均に比べると金沢は欧米の方々が多い状況です。アジアでは結構台湾の方が多いです。これは小松空港にエバー航空というのも入ってきますので、それで多かったり。あと、金沢出身の八田與一さんという、台湾でダムを造った人がいます。

藤巻　金沢出身なのですか。

中坂　そうなんです。金沢出身で、台湾のダムを造って治水事業に貢献したということで、金沢のことを皆さんかなり愛してくださっているということもあり、台湾から金沢に来ていただいています。

ヨーロッパとかアジアとか、金沢の歴史、伝統、文化に、親和性のあるという言葉を使うようですけれども、そんな所の方々にお越しいただく、まだ金沢を知らない方にも金沢のことに興味を持ってもらいたいと、海外プロモーションをさせていただいております。

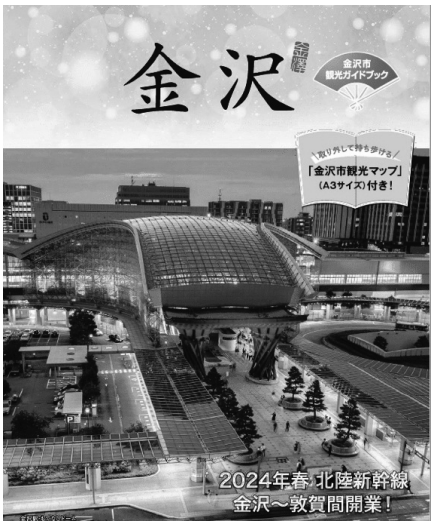
次には、広域連携ということで先ほど八木の方からお話のありました北陸・飛騨・信州 3 つ星街道観光協議会といった連携があります。東京から 3 つ星街道で、松本、高山、白川郷、南砺、金沢と巡る

ルートでお客さまをいただいていこうと。長期滞在でそれぞれのまちの魅力を感じていただき、そのあと金沢からは関空から帰っていただくなり、京都へ行くとか。広島も人気があるそうで、宮島とかはやはり人気のルートらしいです。富裕層の方々は日本に来ると 10 日 20 日は当たり前に滞在されて、一つの旅行で 100 万、200 万は当たり前というような方いらっしゃるそうです。そんな方々に日本をぐるぐるっと回っていただき金沢にもお立ち寄りいただきたいと思っております。

その 3 つ星街道の事業の中で、コロナ期には外に出られなかったので、インバウンドセミナーを都内で開かせていただきました。今年はイギリスでワールドトラベルマーケットという旅行博がありましたので、そちらに職員が参りまして、商談会に参加しました。

広域連携については、連携団体としまして南砺市、高岡市、能登半島広域観光協会、羽咋、小松などもありまして、その他にも白山市とか敦賀などといったところとも広域連携で滞在日数を増やしていきましょうとしております。

金沢市観光ガイドブック



https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/pamphlet/index.html

観光客受け入れ環境の整備

① 観光ボランティアの養成と組織化

中坂　受け入れ環境の整備としましては、観光ボランティアの「まいどさん」というボランティアガイドのチームがございます。1994 年 4 月に発足し、今（2022 年 3 月時点で）会員は 340 人ほどいます。これは「金沢ボランティア大学校」という、本当の大学ではないのですが、~~学習~~市民活動の観点で福祉とか環境とか子育てとか、そういった色々なコースがある中に観光コースというのがございます。その観光コースで 20 回以上の講座を受けた方が「まいどさん」に入会できます。

来年、今度 30 周年になるのですが、ガイドさんを色々していただいております。個人客でご予約いただくこともあるのですが、昨今は修学旅行で。私たちのときは子どもたちだけで班を組んで、色々な修学旅行先の街を巡っていたのですが、最近は班に一人まいどさんがついて先導役になって見守り活動もしつつ案内もしているというような需要もあります。修学旅行については、海外に行けなくなった学校とか、東京都か京都に行けなくなった時期に金沢に修学旅行にというところで、うれしい話ですけど、昨年来、結構需要も来ておりまして、まいどさんたちも大活躍していただいております。

海外旅行客の方を受け入れられる人材ということで、何というガイドさんでしたっけ、グッド何とかってありますよね。

八木　金沢グッドウィルガイドネットワーク、KGGN です。

中坂　インバウンド対応のガイドさんのチームもございまして、その方々と連携し、海外のお客さまがいらっしゃったときの案内をしていただくほか、セミナーなども開催しております。語学研修はもちろんですけれども、おもてなしの心みたいなものについての講座も開かせていただいております。

② それ以外の取り組み

中坂　ここ数年ですけれども、建築という新しい分野。芸能とか文化ということに加えて、建築についてのまちづくりというのにも最近は金沢市として取り組んでいるので、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館をまた一つのスポットとして観光資源にしていきたいと思っております。

これはコロナ期になってから「全国旅行割」の金沢独自のキャンペーンで、金沢市内で宿泊と食と体験を組み合わせた旅をしてくださった方については割引にしますよといったキャンペーンをさせていただきました。この 2 月 28 日に一応事業は終了させていただいておりますけれども、宿泊と食のセットで、美味チケットという観光協会が発行しているチケットを出しました。ビジネスホテルとかに宿泊をするときに、食というものはホテルで朝食程度は出されるところはありますけれども、レストラン設備を持っていないところもたくさんありまして、そんなときにこの美味チケットをご利用いただいて、食の部分を補ってもらう。それによって割引の対象のプランにしていただきましたので、この美味チケットは結構出まして、五感さまさまというところで、大変もうかりました。

今後ですけれども、さらに魅力あるコンテンツを作っていきたいということと、SDG s というよりはサステナブルとかレスポンシビリティとかいった旅づくりにも取り組んでいけたらと思っています。

さらに金沢の食についても磨きをかけていきたい。金沢は小松空港というところが空港になりますけど、あそこは自衛隊の基地でもありますので、プライベートジェット機は飛ばないのです。なので、プライベートジェットなどでいらっしゃる方々は富山空港に降りていただいて、そこから観光に出られるということで、そういった富裕層をターゲットとしたような旅企画も、富山市さんと連携しながら進めていきたいと思っております。

それとはまた別に、来年、1 年後ですけれども、北陸新幹線が敦賀に延びて、北陸 3 県が新幹線で結ばれて富山にも金沢から 20 分、福井にも 20 分と短時間でつながります。相互の市民、県民のつながりもそうですし、あとは観光客の方も気軽に三つの県をまたいで旅していただくことにもつなればと思っております。

先ほどのオーバーツーリズムもありましたが、新幹線開業の効果を、市民生活との調和を持った持続可能な旅づくりへと、今後とも進めていきたいと思っておりますし、先ほどお話しました宿泊税とか、京都市さんの制度を見習ってというようなこともあって、京都市さんをお手本にしながらこれからも旅づくりをしていければと思っています。

金沢市観光協会が担っている仕事

中坂　観光協会としましては、旅行者と市民との相互の理解というもの、お互いに住んでよし、旅してよ

しというような意識を作っていくことが大事だと思っておりますし、伝統文化、食、アート、建築というようなコンテンツに磨きをかけて消費単価を向上させていきたい。そして受け入れ環境ということで、ガイドさんとか、あとは色々な道路とか、ホテルといったような宿泊環境の整備についても応援していきたいと思っております。

組織体制の強化ということで、できましたら宿泊税を協会の財源として充てていただいて、安定的に会が回っていくというよう進めていければと思っております。さらに情報収集発信体制の強化ということで、まだまだこのチケットについても結構人力でやっている力仕事ですので、こういったものにDXを取り入れていくとか、京都市さんがやっているように宿泊者データを、ほぼほぼリアルタイムがベストかもしれませんが、なかなか難しいので、ひと月ぐらいで把握して、色々な観光事業者さんのお仕事のデータに役立てていけるような仕組みづくりができないか、今後考えていきたいと思っているところでございます。

ワーケーション事業助成のしくみ

八木　ご質問がありましたので、金沢市のワーケーションの取り組みについてお話しさせていただきます。

観光庁の簡易版のパンフレットに「ワーケーション&ブレジャー」と書いてありますけど、金沢市もワーケーション&ブレジャーの取り込みを狙いまして、事業補助という形で制度を組んでおります。

「仕事と生活の両立　魅力的な金沢のワーケーションを体験」とあるように、一人で来るテレワークだったり、家族で来ていただいて、お父さんがテレワークをしている間、家族で市内観光してもらう。あるいは旅行している間、少しだけどうしても外せなかった会議に参加してもらうなど、そういった形で使ってもらえればということで、やらせていただいています。

制度の趣旨は今ほどもお話ししたとおり、働き方改革と合致した新たな旅のスタイルの普及を見据えて、金沢へ誘客するものです。それと仕事で来てもらって宿泊ということは、イコール基本平日であろうということなので、平日の宿泊促進を目的として、ワーケーション、あるいはブレジャーに対する経費の一部を補助しています。

対象となるワーケーション等は市内の宿泊施設で 2 連泊以上というのが条件になります。ワーケーションについては、テレワークと仕事だけではワーケーションにならないので、プラス休暇という形で観光もしてほしいということになります。ブレジャーというのは、会社の出張命令で出たら、出張が終わったら本来帰らなくてはいけないのですが、会社に届出をして、出張経費で来た後に自分で費用を払って、休暇で追加滞在する部分に対する助成をしています。

対象者は、市外を所在地とする企業等またはその従業員です。従業員でも申請できるようにしたのは、会社の方でテレワークをまだ制度化していない会社がたくさんあるということを企業さんの方からお聞きしていまして、「テレワークでワーケーションを行いたい」と申請しても、「会社に制度がないから駄目」と言われてしまうと申請そのものができなくなるので、申請書の中にこういう計画で申請者が行くことを会社側が了承しましたという欄を作って、それで認めてもらったものをワーケーション事業と認定して助成するという形で担保している部分がございます。

対象経費、補助率および補助金額ですが、宿泊料金と、テレワークとしてホテル以外のコワーキングスペースを活用される場合の部分にも（助成を）お出しする。1 人 1 泊 5000 円までで、補助率は 2 分の 1 ですが、最大 5000 円なので、1 万円を超えても 5000 円しか出ないという形になります。また、一度のワーケーション、ブレジャーについては最大 5 連泊までの助成ということになります。さらに、一つの企業だけに助成が偏らないよう、一企業あたり年間最大 25 万円までという形でさせていただいています。

補助金の申請の流れとしてはワーケーションで来ますという 5 日前までに申請書をいただいて、それに対して補助金の交付を決定し、実際に来ていただいて、終わった後には実績を報告してもらうという形となります。

この結果ですが、制度を始めた令和 3 年度はご存じの通り、コロナ禍の真っ最中で、外に来ることはまずほぼ皆無ということもあり、ゼロでした。今年度に入り、1 月末現在で 15 件、そのうち、個人は 11 名、企業は 3 件で、一個人の方が 2 回申請され、延べで 35 名になります。企業で来られた方の人数が多かったので、延べ人数としては 35 名で、合計して、現在 41 万 8000 円の補助金が出ています。

そのうちコワーキングスペースを使った方は 2 件で、最長滞在の方が 7 日間なので、5 日間補助、2 日間自費として丸々1 週間滞在していただいたという形です。その人に補助を出さなかったら、おそらく 5 日間で帰ってしまった可能性もあるので、そういう意味では 2

日間の滞在が延びた可能性があると言えるかもしれません。

地域的に見ると、関東圏が 14 件、関西圏が 1 件となっています。

最後に本市のワーケーション制度は、他の自治体のようにワーケーションのための施設整備にお金を出したり、ワーケーションではなくて移住を狙った長期滞在の方にお金を出しますという制度ではなく、一時的な滞在という部分での補助制度というものになります。

藤巻　ありがとうございます。

金沢市観光協会の人的な基盤と連携

藤巻　金沢市観光協会の業務なんですが、お一つ一つのコンテンツというか、商品企画というのが多岐にわたっていて、一つ一つがみんな洗練されているように思うのですが、コンサルティング会社とか大手の旅行会社からアドバイスなども頂いているのでしょうけれども、中坂さん自身のご経歴というか、背景をちょっと教えていただければと思ったのですが。

中坂　私は市の職員をしておりまして、退職しまして、昨年 4 月から観光協会で事務局長をさせていただいておりまして、まだまだちょっと観光には疎い[4]。経済畑には行ったことがなかったので、最初に観光公開に来たときに「稼ぐ力」と言われたときに、どうしましょうと思ってしまい、まだまだ先輩の受け売りの話ぐらいしかできないもので物足りないと思います。

藤巻　いや、ですが一つ一つの企画そのものが洗練されており、かなりプロがやらないとできないように感じるのですが。

中坂　色々な方々が入って、決まったコンサルタントがいたというわけではないですね。

藤巻　その都度色々な関係者があるわけですね、昔からつながっている。

中坂　そうですね。昔から集まっている、その職に強い会社さんが運営に携わってくださっています。

藤巻　こういう色々なチケットとかありますよね。こういう企画なんかもみんなそういう人たちが話し合って。

中坂　そうですね。チケットも制度を作るときも大変だったと思いますが、一番大変なのは、それぞれの個店のお店さんを説得をする仕事かなと思います。

藤巻　それはどなたがされているのですか。

中坂　それは金沢でタウン誌を作っていて、グルメ情報を扱っている事業者さんがいらっしゃるので。そういった方は人間関係がもう既に出来上がっていました。

藤巻　人的な関係も既にあるんですね。

中坂　ええ。そこの会社さんにご協力いただいて、それぞれお店に声をかけてもらって、これだけのお店さんに参加していただいたわけです。

藤巻　中心となる事業者がやはりいるわけですね。

中坂　そうです。

藤巻　こういう企画そのものは、またそれを昔から得意としている方々がいて。

中坂　ええ。それこそ観光協会の人間も入っておりますし、飲食の業界さんとか組合さんとかもいらっしゃいますので、ご協力いただきながら作っていったと思います。

藤巻　あと金沢市観光協会さんの運営資金ですけれども、これはどこから出るのでしょうか。

中坂　いや、独自資金は会費と受託事業の事務費です[5]。

藤巻　一般社団法人ですよね。

中坂　はい。ほぼほぼ金沢市の下請けというか受託事業をしておりまして、そこを連携しながら事業を進めております。あとは人件費的なものは市から補助でいただいております。

藤巻　市から頂いているのは、主に人件費ということになるのですか。

中坂　はい。

渡邊　金沢市観光協会では、何人くらいの方が働いていらっしゃるのですか。

---

[4] 中坂暢江氏は、金沢市役所出身。金沢市生涯学習部長、会計管理者等を歴任するなど幅広い分野の経験、知見を活かし、事務局の事業・業務の総括責任者として取り組む。2022（令和４）年６月に専務理事兼事務局長に就任（出所・令和５年７月 27 日「観光地域づくり法人形成･確立計画」より）。

[5] 金沢市観光協会の自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針は、以下のとおりである。
・安定的な運営が図られるよう、金沢市の全面的なバックアップのもと金沢版DMOの取り組みを推進する。
・協会会員を対象として、旅行商品造成につながる意見交換会（マッチング）やマーケティング等に関するセミナーを開催するほか、自ら造成した旅行商品を観光協会公式ウェブサイトへ掲載できる仕組みを構築するなど、会員サービスの一層の充実を通じた新たな会員の獲得等による会費収入の増加を図る。
・クーポン事業の内容充実により、利益の確保をめざす。
（出所：2023（令和５）年７月 27 日「観光地域づくり法人形成･確立計画」より）。

中坂　今は、プロパー（専従）が2人おりまして、あと契約の方々がいらっしゃったりして9人です。市の方からも1人派遣で来ていただいておりますので、市との連携はその職員が橋渡しをしながら、ヒーヒー言いながら仕事をしていただいております。

藤巻　そうは言っても、9 人がだいたい常駐してやっていらっしゃるという形ですか。

中坂　そうですね、はい。

渡邊　今までも中坂さんみたいに市の職員だった方が観光協会に行って、だいたいそういうような形で連携関係を作ってこられた、ということでしょうか。それから、まいどさんが 30 年前から活動されているとのことでしたが、やはり観光課や観光協会が働きかけられたのでしょうか。

中坂　最初は市が養成講座を開催したのですが、その後、先ほどお話したボランティア大学校の観光のコースに受け継がれ、そこの修了生がまいどさんの会の中に入って、組織が大きくなっていったという経緯です。ボランティア大学校に絶えず人が入るような仕組みづくりをしたので、今も継続的になっていますし、一回入ったからといって彼ら、彼女たちの生活がそこで、案内だけしているわけではなくて、時代も変わっていきますし、新しいものもできています。古い歴史についても勉強しますけど、新しい観光施設についても学んでいくということを、ご自分たちで勉強会を開いて切磋琢磨みたいな形でやられています。

渡邊　この学校はどんな団体でしょう。

中坂　これは市で作った学習団体みたいなことで、先ほども申しました。

渡邊　生涯学習施設ですか。

中坂　ええ、活動の拠点は生涯学習施設です。学習内容は子育て、福祉、歴史、国際交流、文化、観光、環境、地域づくりと、幅広い市民活動コースに分かれていて、実地訓練もありますし、おもてなしの心、ボランティアの心を学習した上で、この活動をしていただいているということです。

観光コースはボランティア大学校の中では結構人気のあるコースです。ここを終わったからといって終わらないで、また他のコースも受講される。皆さんやはり勉強熱心な方が多いというところが特色かと思います。

渡邊　これは教育委員会。

中坂　教育委員会ではなく、市長部局の管轄です。

渡邊　そうですか。すごいですね。

榎本　これは講師をされている方というのはどういった方が。

中坂　その道の識者~~学者~~であったり、大学の先生であったり、ボランティアの先輩であったり、色々です。

榎本　受講生の方はどちらかというと高齢者の方が多いのでしょうか。

中坂　リタイアされてからという方もおられます。

榎本　若い方もいらっしゃる。

中坂　ええ。若い方もいらっしゃいます。

藤巻　講師はボランティアですか。それとも報酬。

中坂　人それぞれですね。

藤巻　バラバラ。

中坂　ええ。基本謝礼は出ています。

榎本　これだけのものがあるというのはすごいことですね。

渡邊　本当にすごいですね。

八木　どちらかというと市民協働というくくりですよね。金沢市はもともと町会組織も結構強いところで、いわゆる自治的な組織の強いようなところが背景としてあるので、こういうものが作りやすかったというところがあると思います。そういう意味では、他の自治体さんにはなかなかない形のものかなという気がします。

渡邊　今日、県立博物館で一向一揆に由来する「講」の活動の映像を見せていただいたのですが、そういう土地柄というのも関係ありますか。

八木　そうですね。もともと浄土真宗の強い土地柄でもあります。

藤巻　これが継続してできるというのは、すごいことですね。

中坂　はい。コロナ期になってから、定員をマックスのときより半分ぐらい落として、徐々にまた復活していくかなと思っておりますけれども。

榎本　受講にはお金がかかるんですか。

中坂　5000 円だったか、かかったと思うんですけど。実費みたいなのはまた別になると思います。

渡邊　金沢マラソンボランティア体験とか。

中坂　そうですね。色々なところで協力していただいておりまして。観光コースのところには、まいどさんの先輩も講師として入っておりまして、まいどさんの活動についてもご説明したり、「ちょっと、あなた、案内してみて」と体験というか、実技もあると聞いております。

ボランティアの育成はしても、活動の場所がないと続かないところはありますので、観光コースはこのまいどさんでというルートができているので、比較的活

動にはつながりやすいと思っています。

渡邊　そうですね。せっかく学ぶ機会があっても、学んだことが成果を活かす活動になかなかつながっていかないですよね。公民館などで色々講座をやったとしても、その成果を活用する場がなくて。

藤巻　活用する場があるからできるのでしょうね。

田中　今の件も、もちろんそれはそもそもボランティアガイドをも育成するためにやっていたわけではないんですね。

中坂　そうですね。

田中　別の形でスタートしたものが、今になって結構大きなベースになっているということですね。

中坂　このまいどさんの活動というのも重要なことなので、何かしらお手伝いできればというところはあったかと思うのですが、強制的ではないので、ここで勉強したからまいどさんにならなければならないというわけではない。

田中　修学旅行で引率とかも。

中坂　はい、そうです。

田中　そういうときはもちろんボランティアだから無料で来てくれるんですか。

中坂　なので、一応市の方から交通費ということで 1 日いくらかのお金は頂いていますけど、案内料はなしなので。これは蛇足な話ですけど、旅行者の方とかがセットされてまいどさんに依頼をかけるので、学校の先生方というのはまいどさんたちのことを観光業の人、ガイド業の人みたいなつもりでいらっしゃるのでしょうけど、彼らは心意気でやっているので、その辺のなかなか意思疎通というのは難しいところかなと思いますね。

マイクロツーリズムの独自の形

並川　最近、マイクロツーリズムみたいな話も出ていると思うんですけど、こちらではそういう近隣の人に来てもらうみたいなのというのはあまり考えていなかったりしますか。

八木　先ほど齊藤が、最初の説明の後に、本市の観光プランの話をしたと思うのですが、そのプランの中で、市民の方々に観光をよく知ってもらう必要がある、理解してもらわないと、いくら金沢市の方で観光によって皆さんの生活が潤っている部分もあるし、皆さんと協働してやっていきますと言っていても、観光のためにわれわれの生活がひどくなっていると言われてしまうと良くないので、市民の皆さんにも観光を理解してもらうという観点でマイクロツーリズムをやると説明しました。

このように、本市のマイクロツーリズムに対する入り口が、若干他のところとは違うかもしれません。市内で人が動いてくださいというよりは、観光を理解してもらうために、皆さんにもう一度街を回ってもらって、街を理解してもらおうという感じで事業をしています。

並川　そうすると完全に金沢市民を想定してみたいな形。石川県民というよりは。

八木　県民でもいいのですが、どちらかというともっとぐっと絞っているところです。

渡邊　そういう方向性については市民からはどちらかというと支持されている感じがしますか。

八木　なかなか難しいんですけど、計画自体がちょうどコロナ禍になってから始まったもので、その効果がそのままイコールなのかというのがちょっと分からない部分があるのです。ただ、それなりの人数の参加者がいらっしゃったので、そういう意味では一定の理解が得られたと取ることもできますし、たまたま遠くに行けなかったから参加されたのかもしれないというところがあって、ちょっと評価がしづらい。

本市の観光のプランに係る部分の指標はコロナの前後の数字が大きく動いているところでやっているもので、本当にそれで評価できるかということを、今まさに議論しているところです。

渡邊　たいへん興味深いですね。

観光プラン作成上の苦労

榎本　もう一つ聞いてもいいですか。観光協会さんの取り組みが非常に面白いんですけれども、私もちょっと新潟の古町の花街の取材をしたことがあるのですが、花街であるとか、食の方でも老舗の料亭さんなどもたくさんあると思うのですが、古い商習慣で動いている部分と関わるところというのがやはり歴史ある街なので多いと思うんですけど、チケット制にしたりとか、お客さんを新しく入れて芸妓さんが芸を見せるというだけではなくて、例えばお客さんも女性であったりにたたいてもらうとか、そういったことというのはかなり新しい試みでもあると思うんですけれども、そのあたりというのはプランを立てていくときに協力的に進んだのか、それとも色々説得とか交渉が必要だったのか、どうでしょうか。

中坂　私が来たときはもう出来上がっていたので、

乗っかっているだけなんですけど、当時、本物の芸に触れる旅とこれを企画したときには、やはり一見さんお断りでやっているところに一般の方々が入ってくるのは、かなり抵抗があったと聞いております。そこを当時の観光協会と観光課の職員が何度もお願いに行って「あんたたちがそういって言うんやったら、私らも協力しましょう」と、最後は協力していただいたということを聞いております。

榎本　新潟の花街だと、後継者がやはりいなくなってしまって、それがきっかけで、お茶屋さんというか、そういう制度ではなくて株式会社柳都を立ち上げてということがあったみたいですけど、花街側の事情というか、そういうこととの合致とかそういうことではなくて、観光協会の説得に応じてという形だったのでしょうか。

中坂　今残っているお茶屋さんは個人経営で、まだそんな株式会社が入ってくるというところはそうそうないですけど、実際後継者不足というところは若干ありまして、協力していただける、続けていけるところに今参画いただいております。体験から芸妓を目指す方がでてくるとうれしいです。

榎本　ありがとうございます。

今後、力を入れたい取り組みなど

渡邊　コロナが少し落ち着いてきてというところで、これから3年間ぐらいでどういうところに特に力を入れていきたいというようなことは。今日お伺いして、だいたい方向性は何となく私たちも受け止めさせていただいたと思うのですけれども、観光課と観光協会とそれぞれ違ったお立場から、今から力を入れていきたいことは、どんなことでしょう。

齊藤　おそらく観光政策課も観光協会も同じ、両輪でやっているので、立ち位置としては一緒かなと思っておりますし、まず一つはコロナ禍前の状態に戻るということはなかなかないと思いますので、そういった中でしっかりと稼いでいくというところが当面の課題と思っています。先ほど中坂さんの方からもありましたけれども、金沢市のターゲットとして、海外としては欧米豪というところを思っていますし、国内としては首都圏の富裕層で女性というところにターゲットを置いて注力しておりますので、その辺を軸に長期滞在化とそれによる観光商品などの向上というものが目下の課題と思っています。

新幹線開業後のあの賑わいが戻るかどうかということはちょっと分かりませんけれども、それと同じぐらいの経済効果というものは受けていきたいなということで、それを持続させないと、いわゆる観光事業は裾野が広いですので業者さんが立ち行かなくなっても困りますので、その辺、地域内でお金が回るような形をしっかりと仕組みづくりしていければと思います。人材不足とか目下の課題もございますので、その辺もデジタル化とかを進めながらやっていかないといけないということである予算の中でどう効果的に使っていけるかということを、知恵を絞りながらやっていきたいと思っています。

八木　一点だけ付け加えると、新幹線というキーワードが出ましたけど、北陸新幹線が敦賀まで来年延伸します。大阪まで延伸するのはいつになるのかという話があるのですが、関西に延びていくのは間違いない。

今までは新幹線が関東につながったので関東からの誘客が中心だったんですけど、国内の誘客のプロモーションの在り方も少し見直して、もう一度関西の方にもという話も出ています。新幹線の敦賀開業を第二の開業という捉え方をしていこうという予算取りもしていますので、そういった動きも出てくるのかなと思っています。

堀籠　各事業者さんと、金沢市としての観光の方向性、ビジョンに関しての共有は割とうまくいっている感じですか。例えば事業者さんの中でも、ちょっと「こういう動きは…」、「ああいう動きは…」ということがそれぞれあるのではないかと思うのですが、そのあたりの調整などはどのような形になっているかお聞かせいただきたいです。

中坂　不協和音というのは聞こえてはいないのですが、色々な事業者さんが観光協会の協会員さんとして今400社ほど入っていただいておりますので、そんな中で理事会、総会という中で意思疎通を取りながらやっておりますので、そんなところでご意見を伺っているかなと思っています。あと宿泊とか、飲食とか、業界ごとの組合さんもありますので、そういったところと連携しながら。中では色々不協和音もあるのかもしれませんけれども、観光の集まりとしては今のところ円満にやっているかなと思っております。

堀籠　ありがとうございます。

藤巻　本日は、私たちのためにお時間をお取りいただき、誠にありがとうございました。